定期予防接種一覧(接種対象年齢内であれば無料)

原則的に受けたほうがよいとされているものです。法律によって種類と対象者、接種期間が定められています。
病気にかかりやすい時期を考慮して望ましい接種時期の期間中にできるだけ接種しましょう。

ワクチン	対象年齢 (対象年齢内の接種は無料)		望ましい時期	間隔	回数
ロタウイルス (ロタリックス・ロタテック) ※どちらか一方を接種	ロタリックス 生後6週0日～生後24週0日		生後2か月から ※初回接種を14週6日までに 行う	27日以上の間隔をおく	2回
	ロタテック 生後6週0日～生後32週0日		生後2か月から ※初回接種を14週6日までに 行う	27日以上の間隔をおく	3回
B型肝炎	1回目	生後1歳未満	生後2か月から 9か月未満	—	1回
	2回目			1回目終了後、27日以上の間隔をおく	1回
	3回目			1回目終了後、139日以上の間隔をおく	1回
小児肺炎球菌	初回	生後2か月から 60か月未満	接種開始が 生後2か月から7か月未満 (標準的には生後12か月までに 3回接種)	27日以上の間隔をおく	3回
	追加		生後12か月から 15か月未満 ※生後12か月以降に行うこと	初回終了後、60日以上の間隔をおく	1回
五種混合 (ジフテリア、 百日せき、破傷風、 ポリオ、ヒブ)	1期初回	生後2か月から 90か月未満	接種開始が 生後2か月から7か月未満	20日以上(標準的には56日まで)の間隔をおく	3回
	1期追加		1期初回終了後、6か月から 18か月未満	1期初回終了後、6か月以上の間隔をおく	1回
BCG(結核)	生後1歳未満		生後5か月から8か月未満	—	1回
麻しん・風しん(MR)	1期	生後12か月から 24か月未満	—	—	1回
	2期	5歳以上7歳未満で、 小学校就学前の1年間			1回
水痘	1回目	生後12か月から 36か月未満	生後12か月から 15か月未満	—	1回
	2回目		1回目終了後 6か月から12か月未満	1回目終了後、3か月以上の間隔をおく	1回
日本脳炎	1期初回	生後6か月から 90か月未満	3歳	6日～28日までの間隔をおく	2回
	1期追加		4歳	1期初回終了後6か月以上、 標準的に概ね1年の間隔をおく	1回
	2期	9歳以上13歳未満	9歳	—	1回
二種混合 (ジフテリア、 破傷風)	2期	11歳以上13歳未満	11歳	—	1回
子宮頸がん(HPV) (サーバリックス・ガーダシル・ シルガード9) ※いずれか一方を接種	小学校6年生～ 高校生1年生相当の女子		中学1年生	<サーバリックス(2価)> 1か月以上あけて2回、1回目から6か月以上あけて1回	3回
				<ガーダシル(4価)> 2か月以上あけて2回、1回目から6か月以上あけて1回	
				<シルガード9(9価)> ○1回目の接種を15歳までに受ける場合 6か月以上あけて2回 ○1回目の接種を15歳になってから受ける場合 2か月以上あけて2回、1回目から6か月以上あけて1回	

- ★1 小児肺炎球菌ワクチンは、望ましい接種時期以外に接種を開始した場合は接種回数が上記と異なります。
- ★2 日本脳炎の予防接種については、1995年(平成7年)4月2日～2007年(平成19年)4月1日に生まれた方は、日本脳炎の予防接種を受ける機会を逃しているため、接種の特例として20歳未満までの間であれば定期予防接種ができます。
- ★3 子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)については、1997年(平成9年)4月2日～2009(平成21年)4月1日生まれの女子で、令和4年4月1日～令和7年3月31日の間に1回以上接種された方は、キャッチアップ接種として、令和8年3月31日までの間であれば自己負担がかからず接種を受けることができます。
- ★4 麻しん・風しん(MR)の予防接種について、一部の対象者については、令和8年度末までの2年間接種期間が延長されます。
第1期の対象:令和4年4月2日生まれ～令和5年4月1日生まれの人
第2期の対象:平成30年4月2日生まれ～平成31年4月1日生まれの人